

平成27年 第4回定例会

一般質問

12月7日(月)

(質問・答弁は質問者本人がまとめたものです)



辻浦

義浩 議員

新政クラブ

問

「大滝区の
振興について」

平成28年で合併から
10年になるが、記念事
業等を開催する考えを
問う。

答

2019年の開基
150年に合せて大
滝区のイベントも計画し
たい。

問

学校・保護者・地
域の皆さんが共に



今後の利用促進が期待されるまなびの里サッカー場

問

スポーツ活動の
普及および振興に
ついて(サッカーにか
かわる件)まなびの里サ
ッカー場の今後の利用促
進等を問う。

答

新しい学校運営方
式であり地域ととも
にある学校づくりが大事。
導入に向けて校長会な
どで協議していく。

知恵を出し合い一緒に
協働しながら子どもた
ちの豊かな成長を支え
ていく「地域とともにあ
る学校づくり」を進める
コミュニティ・スクール
を導入する考えを問う。

答

平日の昼間の利用
は少なく、サッカー以
外の利用についても考えたい。
また、新たな整備や指
導者については検討してい
く。

佐藤

匡則 議員

新政クラブ

問

「福祉行政に
ついて」

知的障がい者の高齢
化対策について
市の事業としての「健
康産業」と知的障がい
者の予防介護の連携に
ついて問う。

答

グループホームや
在宅の方は、十分な介
護予防が行われている状
況にない。
今年度モデル的に実施
する高齢者対象の健康カ
ラオケ事業との連携につ
いて今後検討する。

問

第3期伊達市地
域福祉計画について
地域福祉の担い手作
りの具体的な方策の考

え方について問う。

答

地域を支えている
方々の後継者を育て
ていく環境づくりが大切
であると考えている。
今後これら関係団体
と連携を図りたい。

問

計画の素案策定
を行うに当たり、

聞き取りや調査アン
ケート等、どのような形
で素案作りに至ったの
かについて問う。

答

関係団体の方々
に策定委員になってい
ただき、意見をお伺いした。
また、パブリックコメン
トの実施により広く市民
の意見を募集した。

問

福祉教育の推進
についての進捗状
況と、今後の計画につ
いて問う。

答

「フレンドリーサ
マーレク」は学校と連
携した行事としても定着
し、福祉に対する教育が浸

透してきているものと考え
ている。
今後もノーマライゼー
ションの推進に努める。



知的障がい者の予防介護との連携が期待される健康カラオケ事業



小久保重孝 議員

青雲

問

商業振興策とし
て全国商店街支援
センターの活用につ
いて問う。

答

事業者主体の取組
みを応援する立場な
らどんな取り組みも応援
していきたい。

問 放課後児童クラブのこれからについて問う。

答 新年度に向けて待機児童が発生している「やまびこ児童クラブ」の増築の検討を進める。

問 厚労省のガイドラインを越えた取り組みについて問う。

答 厚労省にとらわれないことなく、子どもたちのために何ができるかを考えていくべきだ。

問 困窮世帯の子どもたちの学力向上について問う。



市民活動の拠点となる市民活動センター

答 市民活動センターなどを利用して対策を講ずることが必要だ。

●その他の質問
新教育長の伊達市教育にかける夢とは。

吉野 英雄 議員
無党派

問 人口減少や高齢化、中小企業経営の疲弊、基幹産業である農漁業へのTPPの影響など山積する課題への基本的考えを問う。

答 来年度予算編成にあたり、将来に資する投資的事業を中心に重点的配分を行う。地方の資源を生かした産業育成で雇用を生み出すこと、「健康社会の実現」などの施策を進める。

問 生活保護基準引き下げによる「要保護・準要保護児童」等に対する国の通知に基

づく対応について問う。

答 平成25年度と比較し15世帯が非認定となった。今後、近隣市と協議し見直ししていく。

問 父母の要望が強い子どもの医療費無料化年齢拡大を行うべきと思うが考えを問う。

答 子ども医療費助成は少子化対策として国が行うべきだ。独自助成への交付金削減は市長会を通じ廃止を国に要請する。

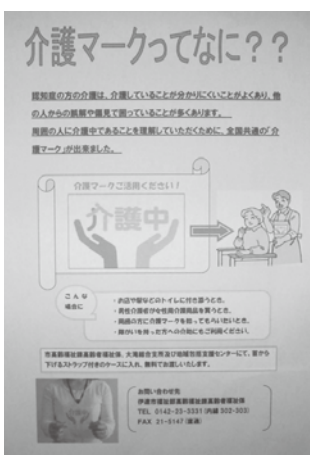


●その他の質問
介護報酬引き下げによる事業所の実態調査について

渡辺 雅子 議員
公明党

問 介護マークについて、多くの市民の方の認識度を高め気軽に利用できるようにできないか。また、配布場所の拡大について問う。

答 医療機関や商店街などの協力を仰ぐとともに、公共施設での掲示により、広く市民に認知されるよう周知に努める。伊達赤十字病院とミネルバ病院に協力をいただき、状況を見ながら順次拡大を図っていく。



現在配布されている介護マーク

問 健康対策における胃がん予防支援として40代以上と集団健診を受けられる中学2年生を対象に、ピロリ菌検査を項目に入れないか。さらに、がん教育の充実と講演会の開催について問う。

答 検査を実施する市町村もある中、「対策型検診」として国は受診を推奨していないので国の動向を慎重に見守っていく。

答 がん教育については、光陵中1校で3年生を対象に出前講座を平成26年・27年に市保健センター職員を講師として行っている。講演会については、健康づくり事業の一つとして「がん」全般で講演会を開催する。

